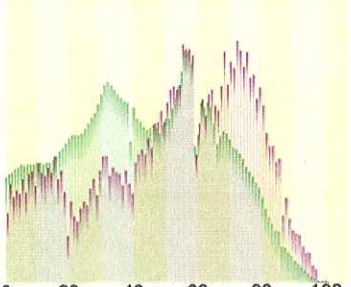


平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	四万十川・RIVER会員制度を活かした地域資源活用プロジェクト
対象地域	しまんとがわちゅうりゅういき とおわ たいしょうちく げん しまんとちよう にしとさちく げん しまんとし 四万十川中流域（十和・大正地区（現・四万十町）、西土佐地区（現・四万十市））
対象地域の概要	   ▲位置図 ▲地域の様子 ▲四万十町と全国の年齢別人口分布図（比較）紫：四万十町、緑：全国（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）
提案内容の概要	四万十中流域に暮らす人々が安心して、楽しく地域で暮らし続けられるよう、地域を愛する心と、人と人のつながりを再構築する持続可能なコミュニケーション手法を開発する。会員制度RIVERの会員と一緒に地域資源を見直し、地域内のつながりが、地域外へと波及し、再び地域に戻るアクションのきっかけになることを目指す。
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	●地域のつながりが大事 かつては過疎集落という地域柄、協力し合って暮らしていくという状況が当たり前であり、そこから「地域の人々の存在や動きは知っている」という前提があった。しかし、近年では協力しなくても暮らしていけるような社会状況があり、当該地域においても「知っているつもり」「実は知らなかった」という状況が生まれてきている。ここには、地域住民同士のコミュニケーション機会の減少や、知ってるつもりからくるコミュニケーション不足の状況があると言える。 このような状況から、地域内の人々が何を想い、考え、動いているのかということ共有しにくい状況になっており、地域づくりの取り組みに対しても連帯しにくい状況がある。その一方で、刻一刻と地域の過疎化は進行しており、集落・地域の存続が危ぶまれる状況がある。 この状況を乗り越えていくためには、生まれ育ったこの地域に対する想い・愛を改めて共有し、心理的な部分からつながりを強めながら、地域課題解決に向けた取り組みを行っていく必要がある。 ●モノをつくって「売りたい」「販路開拓したい」 地域が生き残るためには、地域資源（農産物や自然環境）を活用して、（地域）外貨を獲得する必要がある。しかし、商品をつくったら「売りたい」「販路開拓したい」という課題がある。 また、商品売り買いできるくらいの売り手と買い手の強いつながり・信頼関係ができていないということも言える。この関係性をつくっていくために、売り手である地域側から地域の情報発信し、積極的にコミュニケーションをとっていく方法を考える必要がある。 ●地域内外の人々が積極的にコミュニケーションをとれる仕組みをつくりたい つながりをつくりたい、商品売りしたい、と考え、地域内外の人々と積極的にコミュニケーションをとろうとしたときに、一人一人が個別に動くだけでは限界がある。地域全体として、戦略的に取り組んでいける、この地域にあった仕組みを開発する必要がある。すでにある仕組みとして、町の広報紙やWebサイトを使って多少は行われているが、地域の情報を集める手法と、情報を届ける・発信するという手法が十分考えられておらず、戦略的な取り組みにつながっていないのが現状である。 また、「コミュニケーション」「情報収集・発信」という取り組みは、一見簡単なことと捉えてしまうため、そこに重点を置かれず、時間と労力をかけず、結果として後回しにしてしまっている取り組みである。

	●地域のつながりを受け継ぐ人材育成をしたい コミュニケーション等の不足により、地域に愛着を持って取り組みに参加する人材が少ない。また、参加してきた人材が、どのような取り組みを行えば育っていくのか、地域の中でどのように育てていくのかなど、地域に愛着を持つ人材を育てる戦略が考えきれていない。
(2) 活動内容の案	活動①：コミュニケーション手法開発に向けた社会実験 内容： 現在、「RIVER」という会報誌を年4回作成・発行し、全国300人の会員に地域の情報を発信している。この取り組みの実績も踏まえ、現在つながりのある会員だけではなく、地域の情報を、地域に暮らす人々が得られるように取り組みたい。 そのために、どのような地域情報を地域内の人々に届ける必要があるのか、また、地域外の人々にどのような地域情報を届けたら地域の魅力を伝えられ、次のアクション(地場産品を購入するなど)に動いてもらえるのか、リサーチ・分析を行う。次に、届けるべき地域情報を、持続性を担保しながらどのように収集していきけるのか検討を行う。また、収集した情報をどのように発信していくことが有効な方法となるのか検討を行う。 情報発信の方法としては、例えば、月刊にて地域で起こった出来事などを届ける地域情報誌をつくり地域内に行渡るように配布したり、Webサイトを活用したり、掲示板を設置したり、地場産品を持って行商に行った先で次につながる情報収集・発信を行ったりなど、取り組みを想定している。しかし、ここであげた以外のアイデアが浮かぶようであれば積極的に取り組みたいと考えている。 このように、有効だと考えた方法は、実際にやってみて効果的かどうかを分析・検討するというように社会実験を進めていきたい。結果としては、この地域内における持続可能なコミュニケーション(情報収集・発信)の手法を見つけない。 活動②：人材の配置した積極的な情報収集・発信 内容： 活動①の社会実験のプロセスの中で、コミュニケーション(情報収集・発信)の手法を考え、実践していくためには、人材を配置し、しっかり取り組める体制をつくる必要がある。先にも述べたように、情報収集・発信の取り組みは、軽視されがちで、後回しにされ、結局十分に取り組めないというようなことが起こりえる取り組みである。本プロジェクトでは、そのことを理解した上で、しっかりと人材を配置し、コミュニケーション(情報収集・発信)の取り組みを積極的に行っていく。 活動③：人材育成の方法の分析・開発 内容： 活動①、活動②の取り組みプロセスを追いかけ、分析することで、地域内のネットワークを構築するために必要な要素とノウハウが抽出できると考える。これらのポイントから、地域の中で中間支援的なポジションのコーディネーターを育成していくための方法論を見出すことができるのではないかと考えている。 また特徴として、活動①、②に取り組む担当として、地域にネットワークを持たない人材(UIターン人材)を配置する予定にしている。この点でも、今まで捉えられていないような新しい知見が得られることに期待したい。 このように本プロジェクトの取り組みをしっかりとまとめ、分析を行い、人材育成の方法を開発することに試みたい。
応募団体名	株式会社 四万十ドラマ
リ　　ン　　ク	http://www.shimanto-tennen.com/
部局／担当者名	
連　　絡　　先	0880-28-5527
推薦市町村名	高知県高岡郡四万十町